

一九八六年
五月二十五日
発行



第 69 卷 第 3 号

史学・地理学・考古学

論 説

- 畿内の初期瓦生産と工人の動向……………菱 田 哲 郎 (1)
- 宋代の士人身分について……………高 橋 芳 郎 (39)
- 明治後半期の渡米熱——アメリカの流行……………立 川 健 治 (71)

研究ノート

- 漢代における国家財政について……………楠 山 修 作 (106)
- 紀伊国井上荘絵図の歴史地理学的考察……………水 田 義 一 (123)
- 二枚の絵図をめぐる——

書 評

- 阪上孝編『1848——国家装置と民衆』……………若 原 憲 和 (140)

紹 介

- 森茂暁著『南北朝期公武関係史の研究』(美川圭)
- 江口圭一編著『資料 日中戦争期阿片政策』(伊藤之雄)
- G. イッガース著『ヨーロッパ歴史学の新潮流』(竹中亨)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

ない。近年の歴史研究の量的膨脹を考へれば、こうした研究は、著者の側での一定の明確な歴史学観なしに書かれるものではない。まして諸潮流の併存のなかに、歴史研究の学的発展の方向をさしめず一定の傾向を見出そうとする著者の意図（たとえば三四九頁）からすれば、一層そうである。

とすれば、「附章 エピローグ」は、その表題自身の与える印象よりずっと重い意味を本書のなかでもついていると言えよう。この章は、原著改訂版が出されたおりに、初版以後約十年の各国の歴史研究の動向をまとめ、補論として付け加えられたものである。したがって、その圧縮された概観には、著者の歴史学観がより明確に窺えるのである。

著者がここで強調しているのは、「象徴主義的歴史学」（三一七頁）の潮流である。ここに先立つ第二章から第五章で明らかにされているように、事件史的方法と政治史・外交史への傾斜を特徴とする伝統的歴史学への批判として立ち現われた現代歴史学は、その視線を過去の社会全体、あるいはそれを構成する民衆に向けてきた。そしてそのことは、分析手法の面では、解釈学的

考察から数量史的方法への推移に反映されている。こうした社会史的な視野の拡大という大きなうねりは、今日までの歴史学の底流となつてはいるが、しかし近年そこで新たな展開方向が顯著となつてはいる。すなわち、数量史が過去の民衆生活の物質的側面の解明に関心を払つたのに対し、近年の社会史研究はむしろ民衆生活の内実をなす象徴・文化・記号などに焦点をあわせるようになった。換言すれば、「人口学的、物質的な要素から、文化的・イデオロギー的要素への移行」（三二二頁）が起こつたのである。これに並行して、人類学の方法を援用した解釈学的手法が再び採用されるようになった。

こうした新傾向の先頭を切っているのが、フランスのアナル学派であり、その業績はわが国にも多く紹介されている。そのかぎりでは、著者のこの見方は別段唐突に響くものではない。ただ、それが歴史学の今後進むべき方向までも示しているのかどうか——もともと著者は、この点に関しては方法的多元主義を掲げることによって、明言を避けているのだが——については、大いに議論のわかれるところである。

しかし、いずれにせよ、現代歴史学の多様な潮流を一箇の全体像に集約しようとした意図は、十分に評価されるべきである。有意義な本書の刊行を喜びたい。

（A5版 三六二頁 晃洋書房 一九八六年一月 三九〇〇円）
（竹中孝 東海大学文学部講師）

受贈図書

（一九八六年三月一日〜四月一七日）
M・クラウル著・望田等訳 ドイツ・ギムナジウム二〇〇年史（ミネルヴァ書房）
金田章裕著 条里と村落の歴史地理学研究（文明堂）



立正西洋史（立正大学西洋史研究室） 八
京都部落史研究所紀要 五
総合研究所報（福岡大学） 八七
紀州（経済史）文化史研究所紀要 五
日本学士院紀要 四〇—三
日本学士院紀要 四一—一
神道学（神道学会） 一二—八
人文学部紀要（札幌学院大学） 三八
八幡大学論集（八幡大学法経学会） 三六
—二—三
札幌大学教養部紀要 二七

西洋史論叢(早稲田大学西洋史研究会)

七

アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究

所) 一一二

南方文化(天理南方文化研究会) 一二二

西洋史学報(広島大学西洋史学研究会)

一一二

東京学芸大学紀要 三三七

鹿兒島経大論集 二六一四

韓国史研究叢報索引(SEOVL 国史編纂委

員会) 一一五〇

韓国史研究叢報(SEOVL 国史編纂委員会)

五一

三康文化研究所年報 二一〇

人文学科論集(鹿兒島大学法文学部) 二

三

経済学研究(九州大学経済学会) 五一一

三

人文科学論集(信州大学人文学部) 二一〇

経済論究(九州大学大学院経済学会) 六

三

人文論叢(福岡大学総合研究所) 一七一

四

日本常民文化紀要(成城大学大学院文学研

究科) 一一二

女子短期大学部紀要(札幌大学) 七

岐阜史学(岐阜大学教育学部岐阜史学会)

八〇

人文学(同志社大学人文学会) 一四二

文化学年報(同志社大学文化学会) 三五

石炭研究資料叢書(九州大学石炭研究資料

センター) 七

岡崎市史研究(岡崎市史編纂委員会) 八

紀要(中央大学文学部) 三一

三浦古文化(三浦古文化研究会) 三八

経済経営編集(龍谷大学経済経営学会)

二五—三、四

アジア・アフリカ文化研究所年報(東洋大

学) 二〇

熊本史学(熊本大学熊本史学会) 六二

六三合併号

徳島大学教養部紀要 二一

人文論叢(東京工業大学) 一一

史林投稿規定

◇資格 本会会員であること

◇投稿受付原稿の種類、長さ

○論説 四〇〇字詰八〇枚以内

○研究ノート 四〇〇字詰五〇枚以内

○研究動向 四〇〇字詰五〇枚以内

○書評 四〇〇字詰二〇枚以内

○紹介 四〇〇字詰三枚程度

◇論説には四〇〇字以内の「要約」と

「欧文要約」を添付のこと

◇研究ノート・研究動向・書評には、「欧

文タイトル」のみ添付のこと

◇註は各章末に入れること

編集後記

遅ればせながら漸く六九巻三号をお届けすることができました。これまでも感じさせられたことですが、原稿の集まり具合にも周期があるようでこの号も難航しました。幸い四号以降は遅れを回復しつつありますので御海容の程お願い申し上げます。(A)

一九八六年 四月二五日印刷 定価一〇〇〇円

一九八六年 五月一日発行 送料五〇円

史林 第六九巻第三号(通巻第三三七号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史学研究会

振替京都七一一五五番

理事長 水津一朗

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXIX No. 3 May. 1986

CONTENTS

Article :

- The Early Roofing-Tile Production and the Real Conditions of
the Craftsmen in Five Home Provinces 畿内……………*T. Hishida* (1)
- The *Shiren* 士人 Class in the Song Dynasty……………*Y. Takahashi* (39)
- “To-Bei” (Going to America)
Boom in Late Meiji Era ……………*K. Tachikawa* (71)
—American Ferer—

Note :

- On the Public Finance in the Han Dynasty……………*S. Kusuyama* (106)
- A Historical Geographical Study on Two Picture Maps
of Kiinokuni-Inouesyo 紀伊国井上荘……………*Y. Mizuta* (123)

Book Review :

- T. Sakagami, 1848—Apparatus of State and People*………*N. Wakahara* (140)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369